



Title	人々による地域文脈の形成と継承のあり方に関する研究 -ガーナ・アクラLa市域 非正規市街地の土着コミュニティと「あこう絵マップコンクール」参加者による地域文脈形成を対象として-
Author(s)	江端, 木環
Citation	大阪大学, 2023, 博士論文
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/91958">https://doi.org/10.18910/91958</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 論文内容の要旨

氏 名 ( 江 端 木 環 )	
論文題名	人々による地域文脈の形成と継承のあり方に関する研究 - ガーナ・アクラLa市域 非正規市街地の土着コミュニティと 「あこう絵マップコンクール」参加者による地域文脈形成を対象として -
論文内容の要旨	
<p>本研究は①アフリカ・ガーナにおける非正規市街地の地域文脈の解読（観点①：コミュニティ），②兵庫県赤穂市における絵地図づくりを通じた人と地域との文脈形成（観点②：市民）という2つの観点から，「地域文脈」の継承に向けて考察することを目的とする。異なる観点①，②から，地域文脈の解読主体（地域住民・専門家）に着目し，それぞれの観点と解読主体から継承に向けたアクションに必要な要素を整理し，図解化を試みながら地域文脈の継承に向けた考察を行う。</p> <p>観点①：本論では，除却・再開発されるべきと見なされてきた「非正規市街地」に焦点をあて再解釈・再評価を行う。土着コミュニティを核として独自の地域マネジメントが行われてきた当該地域の「地域文脈」の解読を通して，従来の都市開発のあり方にかわる新たな改善的整備手法に向けた新たな糸口を考えた。観点②：地域の持続可能性を担保するには，地域文脈を多くの市民が認識し，読み取り，人と自然，人と人，人と社会との繋がりを再構築し，地域のあるべき方向性の共有することも重要な観点である。ここでは，人々が自らの興味・関心から主体的に「地域文脈」への認識や学びに繋がるまちづくりの取り組みとして「絵地図づくり」を取り上げた。</p> <p>第1章では，研究の目的，背景，方法論をまとめた。</p> <p>第2章では，ガーナ・アクラLa市域に位置する非正規市街地Abese地区を対象として，水・衛生環境に着目し，その実態と整備・維持管理から，土着コミュニティを核とする地域マネジメントの仕組みを明らかにすることを目的とした。土着コミュニティ「クラン」の概要と合意形成の仕組みに関してヒアリング調査を行った上で，踏査およびヒアリングにより水・衛生環境の整備実態を把握した。また，個々の事例に関して整備プロセス・維持管理形態を明らかにした上で，Abese地区のマネジメントに関して類型化を行った。これらを踏まえ，北・南街区の整備状況およびマネジメントタイプを比較すると，北街区は，クランを核として，慣習的な相互扶助に基づく自律的な地域マネジメントが行われていた。一方，南街区はクランによるマネジメントが行き届いておらず，地域運営主体の不在や住環境の改善などの課題が挙げられる。また両地区において，人口の流入流出などの環境変化によりコミュニティの希薄化という課題が明らかになった。</p> <p>第3章では，地図制作を通じた子どもの郷土愛やまちづくり意識の醸成を目的とし，兵庫県赤穂市において市民主体で19年間継続されてきたまちづくり活動「あこう絵マップコンクール」に着目する。「絵マップ」とは子どもが自分のまちを調査し，発見したことや魅力を地図や絵で表現した絵地図のことである。本章では，継続参加者を対象とし，子どもの絵地図制作を通じた地域への「学び」に着目し，「地域との文脈形成」を明らかにすることを目的とした。対象者の制作プロセスに着目し，調査・表現内容，テーマ設定の契機や制作過程における関与等の内容を詳細に把握し「制作変遷図」を用いた分析を行なった。分析を通して，能動的な「学び」を主な作品制作の契機とし，制作過程において多様な関与により世代間の知識の受け渡しや作者の地域の一員としての自覚がなされることが把握できた。また，対象者は当該コンクールへの継続的な参加による学びの蓄積を通して，「地域への肯定的なイメージ」の更新や「地域の新たな見方」，「当事者意識の醸成」など，各作者個人の中に形成される地域との繋がり「地域との文脈形成」が明らかになった。</p> <p>第4章では，地域文脈の解読主体（専門家，地域住民）に着目し，2章及び3章の各事例に対して，地域文脈の継承に向けてフロー図を通じた考察を行った。観点①，②及び地域文脈の解読主体「地域住民・専門家」に着目し，それぞれの観点と解読主体から継承に向けたアクションとして「地域計画や地域運営の仕組みの構築」と，地域住民の「意識醸成（愛着・誇り）や人材育成（地域の担い手）」が挙げられる。これらを踏まえ，地域住民と専門家の観点から得た知見をボトムアップの視点を組み込んだアクションプランとする事の重要性を見出した。さらに，アクションプランは「運営・実践」を関連・連携しながら実施することが次の「地域文脈の継承・更新」に繋がる循環を創り出すと考える。</p>	

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

氏 名 ( 江 端 木 環 )			
論文審査担当者	(職)	氏 名	
	主 査	教授	木多 道宏
	副 査	教授	横田 隆司
	副 査	教授	阿部 浩和

## 論文審査の結果の要旨

都市・地域の成り立ちの原理である「地域文脈」に関する学術体系が、都市計画・都市史・建築史の研究者を中心に構築されつつある。専門家による都市計画と人々によるまちづくりが複雑に重層した都市・地域の変容の中に、一定の普遍性と価値を讀解し、過去から未来への発展のあり方を展望しようとするものである。本論文は、この「地域文脈」の概念を拡張するため、二つの観点を設定した。一つは、政府や専門家が関わることなく居住者のみの手により自己形成的に形成された市街地における「地域文脈」の讀解（観点①）であり、もう一つは、子どもが地域を探索し、地域の特徴を読み取る作業を通して、子どもと地域との間に形成される認識や理解のあり方を「地域文脈」と捉え、子どもたちによる「地域文脈」形成のメカニズムを考察しようとするものである（観点②）。観点①の研究対象として、アフリカ・ガーナにおける非正規市街地が選定されている。これは、法的に建設が許されない地域に自力建設された建築群であり、自己組織的に形成された市街地として最も純粋なモデルとなる。観点②については、兵庫県赤穂市の地域環境を題材とし、子どもたちが絵地図づくりを競い合うコンクールの事例が対象とされている。子どもたちが、テーマ設定や調査などで大人を巻き込みながら、地域の理解を深めていく過程を「地域との文脈形成」と定義することで、個人の発展が「地域文脈」の形成と相互浸透的な関係を持つことを検討することができる。二つの事例を通して、「ボトムアップ的」な「地域文脈」を継承する方法論の手がかりを得ることが本論文の目的となっている。

第1章では、研究の目的、背景、方法論が提示されている。

第2章では、アクラのLa地域に位置する非正規市街地Abese地区を対象として、土着コミュニティの社会組織、意思決定、生活慣習、行事などを居住者にたずねることで地域運営の仕組みを調査するとともに、水・衛生環境に着目し、自力的に整備された排水路、浴室、トイレなどの衛生設備の悉皆調査を行っている。その結果、土着コミュニティはクランと呼ばれる15の父系血縁集団から成り、クランごとの家族会議や、全クランの代表が集まるクランズ会議などの合意形成により住環境の維持・改善が行われていることを明らかにしている。また、個々の衛生設備について、整備主体、整備プロセス、資金源、維持管理の組み合わせのタイプを分類し、水・衛生環境のマネジメントの実態を詳細に明らかにしている。北街区ではクランを核として、慣習的な相互扶助に基づく自律的な地域運営が行われているが、南街区ではクランによる管理が行き届いておらず、地域運営主体の不在や地域外からの低所得者層の流入などの課題が指摘されている。

第3章では、地図制作を通じた子どもの郷土愛やまちづくり意識の醸成を目的とし、兵庫県赤穂市において市民により19年間継続されてきた「あこう絵マップコンクール」が取り上げられている。「絵マップ」とは、子どもが自らまちを調査し、発見したことや魅力を地図と絵を組み合わせることで表現したものである。5年にわたり参加を継続している制作者を対象に「絵マップ」の制作プロセスに着目し、テーマ設定の経緯、まちの調査内容、表現内容、家族など協力者の関与等について詳細に把握した上で、「制作変遷図」を用いた分析が行われている。制作過程において多様な人々の関与により世代間の知識の「受け渡し」や地域の一員としての自覚がなされていること、コンクールへの継続的な参加による「学び」の蓄積を通して、「地域への肯定的なイメージ」の更新や「地域の新たな見方」、「当事者意識の醸成」など、参加者個人の中に形成される地域との繋がり形成過程が明らかにされている。

第4章では、「ボトムアップ」による「地域文脈」の形成を誘導するために、地域計画・地域運営の仕組みの構築、

地域住民の愛着と誇りの醸成、地域づくりの担い手の育成などが必要であること、そして、「地域分脈」を解説し人々に伝える主体の重要性が論じられている。

以上のように、本論文はコミュニティと個人のレベルにおける「地域文脈」形成のメカニズムを詳細に解明するとともに、コミュニティによる自律的な住環境運営や、地域における子どもを軸とした多世代の人々による「学び」の循環のメカニズムを明らかにすることを通して、「地域文脈」を継承する都市計画・まちづくりの可能性を拡張することに寄与した。

よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。